
◇◆ほっかいどう防災教育協働ネットワーク◆◇
～メールマガジン第96号(令和5年3月1日発行)～

◇◇◇◇◇◇◇◆ INDEX ◆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

【1】トピックス

- 「冬の山を安全に楽しむために」
三角山放送局「安心安全わが街わが家」2月7日(火)OA内容
- 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震減災計画の策定について(令和5年2月13日策定)
- 冬の北海道へお越しの皆様へ
- 各種メディア・SNS を用いた情報発信について

【2】編集後記

【1】トピックス

- 「冬の山を安全に楽しむために」
三角山放送局「安心安全わが街わが家」2月7日(火)OA内容

三角山放送局のラジオ番組「安全安心わが街わが家」に北海道危機対策課を含む7機関が毎週1回ゲスト出演させていただき、毎回異なるテーマで防災減災情報のお話をさせていただいております。

先日2月7日(火)の放送では「冬の山を安全に楽しむために」をテーマにお話しましたので、一部抜粋してお届けします。

この時期は登山やスキーなど冬山での遭難が多く発生します。

冬山で安全にレジャーを楽しむために、どのような事に注意すべきなのか。

まず冬の山岳遭難として、11月から3月までの冬期間における遭難件数は、毎年約40～50件の遭難が発生しており、このうち、バックカントリースキーによる遭難が約8割を占めています。

寒さと雪が厳しい冬山での遭難は、非常に危険で、特に、今シーズンは海外からの入国規制が緩和されたこともあり、外国人による冬山での遭難が多く、今後の増加も懸念されております。

バックカントリースキーの危険性については、登山でもそうですが、雪崩に巻き込まれたり、山の天候は変わりやすいこともあり、青空から一転、吹雪となることがあります。雪に埋まってしまうと身動きがとれなくなり、吹雪で周囲の見通しがきかなくなると方向感覚が狂い、道に迷う危険性が増大します。

また、バックカントリースキーの場合、整備されていない、地形が複雑な場所を滑るため、思わぬところで転倒したり立木に衝突する可能性が高く、スキー・スノーボードの上級者の方であっても非常に危険な行為です。

バックカントリースキーは大自然が相手となりますので、冬山登山と同様の知識や技能、装備が必要ですし、慎重な行動が大切です。また、スキー場のエリア外ですので、自己責任も問われることとなります。

注意いただきたいポイントは、大きく4点あります。

- 1 無理のない計画をたて、登山計画書を職場や家族、最寄りの警察署に提出する。
- 2 単独での入山は避け、経験が豊富な人のもとで、パーティを組んでの登山に努める。
- 3 山に入る前に必ず気象情報を確認し、冬山は天候が急変しやすいので、絶えず気象の変化に気を配る。天候の悪化が予想されているときは、早めに中止する。
- 4 万全な装備と食料を用意する。

装備の不備や食料の不足が生死につながることもあります。悪天候でも耐えられる防寒具のほか、シヨベルなどの雪崩対策装備、万が一の連絡手段として携帯電話と予備のバッテリーも必ず持って行ってください。また、雪崩や立木への衝突など、生命に関わる事故の危険性が高まります。このことを理解いただいた上で、気象状況に注意し、十分な知識・技能・装備を整えて、慎重な行動を心がけていただきたいと思います。

こちらのラジオはスマートフォンの無料アプリ「Listen Radio」(無料)からも聴くことができます。

★アプリのインストールや視聴方法はこちら↓からどうぞ

<http://www.sankakuyama.co.jp/contents/iphone.php>

札幌近郊にお住まいの方はぜひお聴きください♪

次回放送日 令和5年3月21日(火)10:45~10:55(再放送 同日 21:45~)

筆者が出演予定です！テーマは「北海道の防災教育について(仮)」

■ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震減災計画の策定について(令和5年2月13日策定)

本計画は、令和4年7月に、北海道防災会議地震火山専門部会地震専門委員会「地震防災対策における減災目標設定ワーキンググループ」(以下「減災WG」という。)での検討をもとに北海道が公表した、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定において想定された甚大な被害を最小化するための防災・減災対策について、減災WGでの検討を重ね、被害軽減の数値目標や達成時期、対策の内容などをとりまとめたものです。

○基本理念

令和4年7月に道が公表した被害想定を踏まえ、「何としても命を守る」ことを主眼とし、次の3つの方向性を持って、地震・津波対策をハード・ソフト両面から総合的に実施することにより、想定される被害を軽減し、将来的には死者数をゼロまでに軽減することを目指します。

- ・命を守る
- ・被害を最小限に抑える

・迅速かつ確実に復旧・復興する

○減災目標

想定される死者数を 2031 年度までの 10 年間で8割減少させる

○計画期間

2031 年度までの 10 年間

そのほか、同計画の概要、具体的な対策や減災計画など詳しい情報は北海道危機対策課の HP でお知らせしています。ぜひご一読下さい。

《北海道危機対策課の HP》

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/138639.html>

■ 冬の北海道へお越しの皆様へ

北海道は冬も終わりに近づきましたが、まだまだウインタースポーツやイベントなど冬の魅力が満載！！冬を安全に楽しむためには、雪による事故に注意しましょう！

- 1 冬道運転での注意点
- 2 冬道を歩く時の注意点
- 3 冬レジャーでの注意点

雪による事故から身を守るために注意すべきことをリーフレットにまとめましたので、ぜひご覧ください！リーフレットは日本語版の他、英語版、中国語版、韓国語版、ロシア語版があります。

北海道に来道されるお知り合いの方へもぜひお知らせください。

リーフレットのデータは、下記 HP よりご参照ください。

《北海道危機対策課の HP》

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/142115.html>

■ 各種メディア・SNS を用いた情報発信について

危機対策課では、各種メディア・SNS にて、防災に関する情報を発信していますので、ご覧ください。ぜひフォローやチャンネル登録、いいね！をお願いします！

● 危機対策課のホームページ

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/saigai-bousai.html>

● ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>

● YouTube「北海道総務部危機対策局危機対策課チャンネル」

<http://www.youtube.com/channel/UCH8en7nPSfnsNJ1FyOK0lqg>

- フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」
<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>
- Twitter「北海道防災情報」
http://mobile.twitter.com/hokkaido_bosai2

【2】編集後記

春のような暖かい日差しに恵まれた 2 月最終日でした。皆様いかがお過ごしでしょうか。2月にこのような高気温となるのは54年ぶりだそうで、筆者も外に出て、春っぽい陽気を感じたかったです。雪も寒波ももうおなかいっぱい！このまま春が来てほしいですね

前回の編集後記で、寒波に関する記載をしたところでしたが、筆者、ついに自宅の水道を凍らせてしまいました。一人暮らしを始めて早17年、生まれも育ちも北海道で、なんなら住宅管理の仕事をしていたこともあるのに…やらかした!!慌てて管理会社に連絡をするも、札幌市内で同様の案件が多数発生していたこともあり、業者さんも大忙しで、作業に来ていただけたのは2日後。解氷作業の請求代は…なんと 25,000 円と、高い出費勉強代を払うこととなりました。今季は水道が凍るような低気温はもうないと信じていたのですが、皆様もお気をつけ下さい、繁忙期の解氷作業は高いです！（大事なことなのでもう一度言いました！！）

さて、新しい年が始まったばかりと思いきや、早くも 3 月になりますが、この時期は気温上昇により、屋根からの落雪や雪崩の危険もあります。また、昼間の高気温、夜の低気温で道路はツルツル、ガタガタになります。新生活が始まる方もいらっしゃると思いますので、事故や怪我などに十分お気をつけ下さい。

どうかこのまま気温上昇…過ごしやすい季節が早く到来すること、大きな災害がないことを切に願って、今回のメールマガジンは終了といたします。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

=====

発行：ほっかいどう防災教育協働ネットワーク事務局

（北海道総務部危機対策局危機対策課）

・最新情報発信中！フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」

<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>

・ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>

=====